

2010年度環びわ湖大学・地域コンソーシアム 学生支援事業（一泊二日研修）報告

発行日：2010年10月 発行：学生課（事業主担当大学）

2010年度 テーマ・スローガン！！

「環（わ）～手を繋ごう1万人のびわ湖大使～」

2010/10/2(土)・3(日)

1日目は、この学生支援事業を応援するかのごとく、秋晴れ！波静かな絶好の天気となりました。午前10時前に長浜港に集合後、学生全員で集合写真を撮影。客船メグミに乗船後、学生支援事業担当大学の滋賀医科大学服部副学長のご挨拶があり、その後、沖島の小学生へのプレゼントを用意した。これは、各大学の広報用グッズを集めたものであったが、学生・教職員は、他大学がどのようなグッズを用意しているのか、興味津々で見守っていた。しばらくすると、竹生島に接岸し、地域理解として宝厳寺のご住職による琵琶湖を中心とする歴史や文化、宝厳寺の歴史経緯などについて、説明を受けた。また、川鵜の被害を竹生島の周辺に目視することができた。続いて、沖島到着後、地元理解企画として、沖島漁業組合の協力を得た地元の食材を活用したお弁当、鮎寿司を賞味した。特に鮎寿司を初めて食べた学生もいたことから、食を通じて島内の生活を理解することに繋がった。その後、3つのコンセプト（地引網）、（沖島巡り）、（清掃ボランティア）に分かれて活動を開始した。活動終了後、守山港へ向かい、下船後、徒歩で研修会場に向かった。夕食後、学生交流企画として、12月に予定しているシンポジウムの発表テーマや内容、発表者などの決定を行った。（その後、学生のための座談会形式交流会の開催）

2日目の活動は、琵琶湖博物館を鑑賞し、びわ湖の環境や固有生物の実態を目の当たりにし、強く感じる機会を得た。その後、お昼前には、守山駅で解散を行った。（今後の取り組み）学生は、各大学の特徴を活かしつつ、大学の垣根を越えた交流を行うとともに、連携した取り組みの計画や宿泊研修を通じて一体となった社会学習会的な学びの得られた成果や滋賀の魅力や新たな気付きから、滋賀県の振興などの提言を学生目線で行う成果発表会に繋げることが期待される。



学生支援事業の
内容やご住職の
講義

（地域理解）宝厳寺、
沖島、地元料理賞味
（お弁当、鮎寿司）

宝厳寺住職 ↑

（地引網）
漁協体験：魚
種、魚数、重
量、捕食内容
確認など調
査、加工方法
などを学ぶ
（漁業変化）

（沖島巡り）
島内生活の学
習：小学生に学
ぶ島内生活及
び島内散策か
ら得られた地
域理解、漁業
の現状を学生
との交流

（清掃ボラン
ティア）
環境保全と生
業：ゴミから学
ぶ環境理解、漁
船清掃から学
ぶ職業体験（ゴ
ミの種類から
見るびわ湖の
環境、沖島の実
情）



（地域理解）宝厳寺、沖島、地元料理賞味

（地域理解）竹生島では宝厳寺住職の話や歴史的な建物などを見学。沖島では、漁業会館2階で地元関係者に地元食材を活用して作って頂いたお弁当や鮎寿司を正味。地元理解を図った。

3つのコンセ
プトで活動開始

（沖島めぐり）
沖島小学校PTAに協力
頂いて、小学生達と学生
が3グループに分かれて
活動開始。



（清掃ボランティア）
漁協関係者の案内でゴ
ミの集まる場所向
かう。また、近年の環境
変化について、聞き取
り調査を開始。



（地引網）
沖島漁業組合を通じて、
事前に仕掛けていた網
を引き揚げ開始。



↑ お弁当、鮎
寿司（独特の香
りと味を堪能）



竹生島宝厳寺 ↓



船上交流の企画



船上では、コンセプトご
とに分かれて活動内容の確
認や交流会、沖島の小学生
へのプレゼント準備など
を行った。（12大学の入
試広報用品）

（将来はどこかの大学に
入学してくれることを願
って、集めた大学グッズ）



記事や取材と広報活動！！

○ 京都新聞（朝刊）9月30日（木）
○ 滋賀県広報課 広報テレビ番組「県政週刊プラスワン」12月18日（土）18:00～放送予定
○ 環びわ湖大学・地域コンソーシアムホームページ：http://www.kanbiwa.jp/

(地引網) 漁協体験：魚種・生態調査、加工方法などを学ぶ



(地引網)

取れた魚は、バス、ブルーギルの外来魚がほとんど。解剖するとバスはブルーギルを捕食していた。大きな鯉は、捌いて鯉の洗いで食べました。この日の水揚げは、外来魚駆除対策の4千円ほどでした。

(研修企画は?) 3つの企画内容は自分達が体験して分かった事、考えた事、感じた事がたくさんあったと思います。そんな私たちが1つの環となり、頑張る事が出来たならば、滋賀への助言にしっかりつながると思います。



(学生交流会) 研修初日の総括、シンポジウム (12月11日) の発表テーマ及び発表メンバー選出



(学生交流会)

夕食後、2時間半に渡って、議論し、研修初日の総括や12月11日の成果発表テーマ及び発表メンバーの選出を行った。職業体験や歴史紹介、食文化や独自の浄水システム、ゴミの種類から見るびわ湖の環境などの意見を集約した。



(学生交流会への意見) 夕食後のミーティングで成果発表会に向けての話をした時に、色々話がまとまらなかったりしたし、沖島散策を議題にした時にもっと事前に訪問する私たち学生が沖島についての知識を蓄えて、当日に挑むべきだったと思う。また子供との交流を深めて大変満足でしたが、子供だけでなく大人の方とも色々話す機会を設けるとよいのではないかと思います。(F2年) 議題を決めた上で、研修へ行ったほうが良いと思った。今後の会議は3つのグループでそれぞれ行った方が効率的で良いのでは。(F3年) 交流会は必要なかった。(M3年)



(滋賀県への関心は深まったか?) 私は滋賀県民ですが、知らない事がいっぱいあり、沖島の現状が知れ、もっと琵琶湖をきれいに、そしてゴミを出しても、自分が持って帰る等、心がけなければいけないと思いました。(F1年)

(清掃ボランティア) 環境保全と生業：ゴミから学ぶ環境理解、漁船清掃から学ぶ職業体験



(清掃ボランティア)

漁協近くの清掃と漁船で沖島の北側に移動し活動を行った。その後、ゴミの分別を行い、びわ湖の環境や四季で違う漂着物の聞き取り調査を行った。

(清掃ボランティアへの意見など) 「手を繋ごう」と言えるような感じはなかったです。大学ごとに偏ってバラバラにゴミを拾ったという感じでした。(F2年) 地図で見るだけでは分からない、見なければ分からない発見などあり、滋賀の現状を理解したいという気持ちになりました。(F2年)

(地域理解) 琵琶湖博物館見学 (10/3) (環境変化や固有生物の実態を目のあたり)



(琵琶湖博物館)

館内を自由に見学した。滋賀県出身者は幾度か来ているが、今回の研修で得た情報から違った側面でも興味を持たったようである。また、他府県出身者はびわ湖と繋がった生活や文化の理解が図られた。

(沖島巡り) 島民生活の学習：小学生に学ぶ島内生活及び島内散策



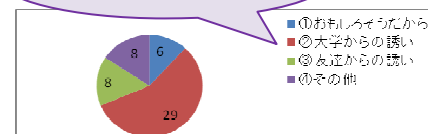
(沖島巡り)

子供たちの案内により沖島の史跡を見て回った。その後、体育館でボーリングや野球・一輪車などで子供達と交流を図った。また、大学グッズのプレゼントには、大喜びであり12大学のいずれかに入学してくれることを確信した。



(ご意見・感想) この二日間、とても充実した二日となりました。他の学生と交流を深める事が出来ました。他にもボランティアをして、今琵琶湖の現状を知る事が出来たので、もっと意識を高めて、綺麗になるようにしたいです。(M2年) 他県からの私にとっては全てが初めての事ばかりでした。改めて滋賀について考える事ができました。地元に戻るときには自分の県はどうか調べて、なにか出来たら良いと思いました。ありがとうございました。(F2年) 他大学の学生さん仲よし二人と自分一人が同じ部屋になり、部屋割に苦戦しました。「手を繋ごう」みたいな歩み寄りの精神は感じられませんでした。(F2年) 学祭の時期にかがせると調整がしんどい。(M1年) 会議の質を高める必要があった。(M4年) 一万円って何が一万円ですか。(M3年) 地域交流企画について事前のつめがもう少しできると良かった。(M S)

アンケート：参加の動機は？



参加して感じる満足度 (69.6%)